



愛川ふれあいの村 今月の風景

## 2024年3月 自然のたより

3月に入り、暖かい陽気の日が多くなってきました。ふれあいの村では、カワツザクラが見ごろを迎えています。ソメイヨシノはやっとつぼみが膨らみ始めたところです。ゆっくりだった春の足音が、少しずつ早足になっていくように感じます。それに呼応するかのように、様々な生き物たちが、活発に活動をし始めました。人間は、花粉症の洗礼を受けていますが、生き物たちはそんなこと関係なく春を謳歌しているようで、羨ましい限りです。(袖山)



ミドリハコベ



ヤマアカガエルのオタマジャクシ



蜜を吸うメジロ



サンシュユ



カラスノエンドウ



ホトケノザ



オニシバリ



ヒロウドツリアブ



テングチョウ



日光浴キタテハ



アカタテハ



声の良いミソサザイ



リュウキュウサンショウクイ



ヒガラがやってきた



考えるモズ♂



## トピックス ★季節の移ろい★

いつしか、三寒四温の時も過ぎ、今年度も間もなく終わります。別れの3月が過ぎれば、すぐそこに出逢いの4月がやって来ます。

季節の移ろいはカレンダーだけでなく、様々な自然の変化でも、知ることが出来ます。

春を知らせる代表格は桜でしょうか。村には7種類の桜があります。早咲きの河津桜から始まり、八重咲きの桜が終わるまで、長い期間楽しめます。

野山ではウグイスの声が美しい。冬鳥のツグミたちは北へ帰る準備で忙しく動きまわります。

村内に群生する、カタクリも例年よりちょっと遅れていますが、咲き始めます。

野外炊事場のテーブルの周りでは、無事に冬を越したルリタテハが嬉しそうに飛び回ります。

こうした、自然の移ろいの中で季節を感じられるのは、とても、素晴らしいことです。それらは、環境の変化にも、敏感に反応します。

毎年同じように出逢える喜びに感謝しながら、陽春の4月を迎えます。(高梨)



## 生き物 ★野生の生き物★

3年ほど前、炊事場付近を歩いていると、ガサガサッという音とともに、ニホンリスが一目散に駆けていきました。よく見る間もなく、オニグルミの木に登っていきます。

一緒に下見をしていた職員が、望遠レンズのカメラを持っていたため、写真を撮ってもらいました。上手にクルミを食べている様子がかわいらしかったです。

その日は利用団体がいなかったため、音が響いていました。野生の動物に出会えた特別感を、感じられた瞬間でした。(三好)



## 旬 ★タラの芽★

春ですね。気持ちがわくわくしてきます。

春の楽しみの一つ山菜。その中でも代表格なのが「タラの芽」独特な香りとはほろ苦さが特徴です。天ぷら・和え物などおいしいです。

タラの芽は、ウコギ科の落葉低木タラノキ属の新芽を指します。鋭い棘があるので採取する時には注意が必要です。タラの芽は、最初に芽吹いた芽のみを採取します。2番芽・3番芽は枯れる原因になるので採取しないようにしましょう。そんなタラの芽ですが、自宅で簡単に水栽培ができます。

伐採した木の穂木を5センチほどの長さに切って、ペットボトルの容器などに水をため挿します。2週間ほどで芽が出て来ます。かわいい芽吹きを自宅で観察しながら収穫ができます。栄養たっぷりのタラの芽、お好みのお料理にして春を堪能してはいかがでしょうか。(菅原)



来月の見どころ

## 自然からの恩恵

森林の中で、清浄な空気に触れると穏やかな気持ちになる。森がもたらす癒しの効果でストレスホルモンが減少するからです。そして心理的な緊張感が抑制され、内にあった活気が取り戻されるからだと言われています。

春植物をスプリングエフェメラル(春の妖精)といいます。代表的な力タクリやイチリンソウ、ニリンソウは美しく華やかです。また、ギフチョウやツマキチョウなど春先の短い期間にだけ見られるチョウも春の妖精と言われています。谷間に咲くハナネコノメ(写真下)も小さいが見つけた時の美しさと喜びは何物にも代えがたい。

コケ類の中で早春の一期に胞子体が見られる種類の、シヤコケはマツタケのような芳香性の香りが気分を安らげてくれます。コケ類は抗菌抗力作用がありミソサイやメシロ、シジュウカラなど広く野鳥に利用される。地球温暖化防止にも役立っている。鳥たちに負けないように自然からの恩恵について考えてみたいと思う。(吉田)

